

講演の訂正箇所

- 5 頁目：カンドル構造は、「 y を中心とした θ -回転」とした.
- 13 頁の 7 行目： $H_1(\quad)$ は $H_1(\text{Ker}(ab))$ です.
- 14 頁の 6 行目： \cap の理由は、直積の定義からです.
- 16 頁の 6 行目：にある「via」のところのポイントは、境界がトーラスだからです.
- 17 頁の 2 行目：の右が欠けている：「 G 」を追加.
- 22 頁付近：「Skelton」の綴りは「Skeleton」が正しい.
- 25 頁：の真ん中に関係式は、二つの式で定義されています.
- 28 頁 3 行目：この補題は簡単ですぐわかります.
- 33 頁以降：群の相対複体の定義で、かなり誤植があります. 詳細は論文を一読ください.
- 35 頁 4 行目： $(-1)^{|l|}$ の定義を忘れていました. $(-1)^{\iota(1)+\dots+\iota(n)}$ です.
- 35 頁 4 行目： $(-1)^{|l|}$ の定義を忘れていました. $(-1)^{\iota(1)+\dots+\iota(n)}$ です.
- 39 頁 1 行目：この命題は、 $|i| > 1$ の時、変です (結び目に使う場合は問題ないです). 正しくは、論文でなおしました. なお、この命題の仮定は Malnormal と言って、3次元多様体の virtual Haken 予想の解決で着目されたそうです.
- 40 頁 1 行目：この定理は、「結び目 L が素であり、non-cable である」という仮定が必要です (この仮定は本質的!). 申し訳ございません. こちらも論文でなおしました.
- 40 頁最後の行： g_1 の位置がおかしいです.
- 42 頁まん中の行:複体上のカップ積の定義がおかしいです. $f(a_1, \dots, a_m)a_{m+1} \cdots a_{m+n} \otimes f(a_{n+1}, \dots, a_{n+m})$ が正しい.
- 46 頁：いろいろと式が正しくありません. もっとも、この講演の目的は証明方針の雰囲気伝える事でしたので、その目的は達成されてはいるでしょう.
- 47 頁の最後の 2 行：まとめと、将来的期待です.